

玉川上水・野の花だより No. 9 南ドンドン橋

中央大学研究開発機構・機構教授 東京大学名誉教授

石川 幹子 2026年 5月5日

次の写真(左)は、大正年間の南ドンドン橋(現在の京王線笹塚駅前)の風景です。渋谷区内には、28か所の玉川上水にかかる橋(橋跡を含む)がありますが、水の流れと子どもたちが映っているものは、ほとんどなく、この橋が暮らしの中に溶け込んでいたことが、よくわかります。ドンドン橋という名の由来は、この地点で玉川上水は弓なりに大きく曲がり、流路をかえ、ドーン、ドーンと音を立てていたことに由来すると言われていています。背後には、縁台のある茶屋のような建物があり、水面を渡る風に、夕涼みをしていたのかもしれない。



南ドンドン橋(大正年間) 出所: 渋谷区教育委員会(2010) 『渋谷の記憶Ⅲ』



南ドンドン橋: 2026年1月3日
撮影 石川幹子

南ドンドン橋のたもとでは、古くから親しまれてきた四季折々の花が咲き始めました。右の写真が、シャクヤク(芍薬)です。江戸時代から親しまれてきた高貴な古典植物です。シュウメイギク、ヤマアジサイなど初夏を彩る花が植栽されました。



シャクヤク 撮影 石川幹子 5月5日

橋詰空間に植栽された、江戸の園芸文化を今日に伝える武蔵野の花

立てば芍薬 座れば牡丹 歩く姿は百合の花



南ドンドン橋 橋詰空間 2026年5月5日



シャクヤク 5月1日



シュウメイギク 5月5日



カライトソウ、ヒメウツギ



渋谷区土木部の皆さま 5月1日

参考 地域のシンボルである橋詰空間を大切にした歴史的・文化的地区の再生
東京：京橋川 橋詰空間の再生（2000年～継続中）

京橋一の部連合町会、中央区、NPO京橋川再生の会

京橋川（きょうばしがわ）は、慶長期に開削された堀川で、日本橋を起点とする東海道に、京に向かう橋として京橋がかけられたことから京橋川と言われるようになりました。この川は、第二次世界大戦後に埋め立てられ、その上に東京高速道路株式会社線が整備されました。しかし、近年、首都高速道路が地下化され、この会社線も不要



となったため、地域の町会を中心に、江戸発祥の地「京橋」を取り戻す地道な運動が行われています。その一つが、地域のシンボルである「大根河岸」の再生です。「おもてなしの庭大賞」等を受賞し、着実な整備が行われてきました。2025年11月には、明治8年の親柱が、本来の位置に移設され、京橋の誇りを取り戻す努力が、粛々と続けられています。



2015年頃の大根河岸

2017年再整備に向けた地鎮祭

2021年～七夕祭等



2025年11月 シンボルとなる親柱の移設

2026年4月30日 野草の植え付け